

5. 経営状況（道路公社）							
項目	単位	R2	R3	R4	R5	R6	
【貸借対照表】							
資産合計	千円	1,298,434,190	1,300,864,746	1,308,131,788	1,328,911,642	1,340,430,110	
うち金銭債権	千円	6,250,948	5,331,071	6,084,503	7,074,061	6,631,647	
うち棚卸資産（販売用不動産含む）	千円	-	-	-	-	-	
負債合計	千円	1,072,679,209	1,074,977,250	1,081,897,160	1,102,131,214	1,112,750,091	
うち借入金額	千円	469,199,677	438,281,530	410,551,204	387,378,364	368,206,426	
うち県からの借入金額	千円	31,103,761	28,161,706	25,950,769	25,002,900	24,446,031	
資本の部合計	千円	225,754,981	225,887,496	226,234,628	226,780,429	227,680,019	
県債務保証額又は損失補償額	千円	203,491,681	191,089,608	179,435,339	168,066,760	159,507,879	
団体債務保証額	千円	-	-	-	-	-	
【損益計算書】							
業務収入①	千円	51,564,953	55,957,903	59,667,510	61,313,985	61,506,435	
業務損益②	千円	35,177,883	37,511,918	37,885,287	40,824,671	37,660,762	
償還準備金及び道路（駐車場）事業 損失補てん引当金繰入前損益③	千円	31,711,134	34,169,022	34,878,209	37,898,199	34,909,699	
当期損益	千円	24,654	30,515	23,132	9,401	△ 4,009	
【収支計算書】							
総収入 A	千円	77,392,155	61,498,697	69,455,290	68,001,366	67,390,789	
うち県財政支出額	千円	1,635,481	185,643	331,439	1,287,366	1,521,150	
内訳：出資金	千円	486,000	51,000	162,000	268,200	451,800	
内訳：補助金・負担金	千円	15,481	15,643	16,839	15,366	15,150	
内訳：委託料	千円	-	-	-	-	-	
内訳：貸付金	千円	1,134,000	119,000	152,600	1,003,800	1,054,200	
総支出 B	千円	73,704,562	62,351,044	69,448,924	65,211,875	62,645,113	
うち人件費総額	千円	1,383,211	1,483,567	1,492,218	1,600,616	1,683,681	
当期収支 A-B	千円	3,687,593	△ 852,347	6,366	2,789,491	4,745,677	
【財務指標】							
自己資本比率	%	17.4	17.4	17.3	17.1	17.0	
県財政支出率	%	2.1	0.3	0.5	1.9	2.3	
人件費率	%	2.7	2.7	2.5	2.6	2.7	
繰入前損益率	%	61.5	61.1	58.5	61.8	56.8	
【団体毎の経営評価指標】							
料金収入実績							
福岡高速	千円	35,906,842	39,433,074	42,338,574	43,699,374	43,830,398	
北九州高速	千円	14,910,122	15,888,142	16,683,562	16,838,011	16,769,238	
収支率（費用/収入）							
福岡高速	%	40.4	42.1	45.4	40.9	46.5	
北九州高速	%	48.4	46.3	47.7	46.4	49.5	
【常勤役職員の報酬・給与に関する状況（R6年度）】							
常勤役員平均年齢	62.0歳	常勤役員平均年収	10,865千円	常勤職員平均年齢	41.7歳	常勤職員平均年収	7,390千円
【経営状況に関する各数値、指標の増減理由】							
<p>収入については、通行台数が福岡高速で対前年比0.2%増加、北九州高速で対前年比0.5%減少したものの、全体の料金収入実績は増加した。</p> <p>費用については、道路修繕費の増により事業資産管理費が増加した。</p> <p>結果として、収入の増加が費用の増加を下回ったため、借入金の償還等に充てる「償還準備金及び道路事業損失補てん引当金繰入前損益③」は、前年度より7.9%減少した。</p>							
6. 団体（経営責任者）の自己点検評価							
<p>都市高速の安全確保のため、インフラ長寿命化計画を策定し、メンテナンスサイクル（点検・診断・措置・記録）の取組を着実に実施している。交通量、料金収入については新型コロナウイルス感染症拡大の影響で令和2年度に減少したものの、回復してきており、令和6年度は目標を達成できた。引き続き、適正な維持管理に努めるとともに、利用促進を図っていく。</p>							
7. 外部専門家の意見							
<p>福岡高速及び北九州高速の通行量及び料金収入について、前年から増加している。引き続き、利用促進、経費の節減等に努め、安定的に収益を確保することで、両高速の適切な維持管理に取り組むことが求められる。</p>							
8. 経営評価委員会による経営評価結果							
<p>交通量及び料金収入は目標を上回り、公社の経営努力もあって、借入金の償還は順調に進んでいる。今後とも高速道路の利用促進や経費削減により、公社経営の安定化に努めるとともに、都市圏幹線道路の整備促進を図るため、福岡空港関連自動車専用道路及び北九州高速5号線の事業を推進していくこと、また、安全・安心の高速道路を維持するため、計画的に老朽化・予防保全対策に取り組むことが求められている。</p>							